



皇室は日本人が模範とする道徳を象徴的に体現してきた系列であり、「国の伝統」と「精神伝統」を兼ねたものと受け止められています。

ど、常に国民に寄り添って支えてきた系列と認められてきました。一つの「系列」として総体的に考えるとき、皇室は日本人が模範とする道徳を象徴的に体現してきた系列といえます。このように、日本人にとって皇室は「国の伝統」と「精神伝統」を兼ねたものと受け止められています。

では私たちはその恩恵にどのように報いることができるでしょうか。ここには一つのシンプルな指針が考えられます。それは、歴代の皇室が祈りを込めてきた国民の幸福と世界の平和の実現に向けて、私たち一人ひとりが努力することです。

国民の幸福と世界の平和は、皆が望み、望まれていることでもあり、また歴史的には実現の途上にあるものです。しかし、その実現に向けて一歩ずつ進んでいくことが、日本という国を支え、日本人の道徳的精神を鼓舞してきた伝統に対する何よりの報恩です。重要なことは、こうした「伝統」観が、私たちの道徳的努力を生みだし、私たちの道徳的成長を促し、私たちを幸福に導き、世界に開かれた道徳を推進する原動力となることです。

今月の範囲

第二部 実践編
第八章 伝統報恩
三、日本における
国の伝統と精神伝統

モラロジー研究所の概論講座で使用される改訂『テキスト モラロジー概論』について、今月は第八章の三、「日本における国の伝統と精神伝統」を図解します。



モラロジーを楽しく、平易に学びたい——。そんな要望にお応えして、この連載では改訂「テキスト モラロジー概論」の内容を図で解説します。ご自身の学習に、あるいは勉強会の資料としてご活用ください。

構成＝「れいろう」編集部

日本における国の伝統と精神伝統

——その恩恵にどのように報いるか

みやしたかずひろ 宮下和大
研究センター廣池千九郎研究室

モラロジーが提唱する「伝統」という考えには、家の伝統、国の伝統、精神伝統という三つの柱があります。そこで今回は日本人にとっての「伝統」を例に、日本人の道徳を考えたいと思います。

まずは「国の伝統」です。国の伝統とは、国家社会における恩人の系列を指すものです。古代から日本を支えてきた恩人たちとして、すぐに思い浮ぶのは皇室でしょう。日本独自の歴史の歩みを踏まえて、現代でも天皇は国民統合の象徴となっています。

次に「精神伝統」です。精神伝統とは、神仏の心を体現して人類に高貴な品性を示し、もっとも高いレベルの道徳を教えた恩人の系列です。この点でも皇室を思い浮かべる人は多いでしょう。日本では武將たちが握った武力や権力とは別に、皇室が人々の尊崇と権威を保ち続けてきました。その理由の一つは、皇室が日本の文化や精神を継承する精神伝統として存在してきたことにあります。

古来、日本人にとって、皇室は国民の幸せと世界の平和を祈り続けてきた系列であり、また大きな災害が生じたとき